

今月の聖句

『主を畏れることは知恵の初め。』
箴言 第1章7節

◎6月の予定

- 1日(木) 尿検査(二次)
教職員協議会
- 4日(日) 私立小学校情報フェア
- 6日(火)～8日(木) 2学期転入体験学習(小・中)
- 8日(木) 校内研修会
- 9日(金) 観劇(中)
- 14日(水) 一斉引渡し訓練(小・中)
- 15日(木) 聖書教室
- 16日(金) 要請訪問
- 17日(土) キ同盟小学校教職員協議会
- 20日(火) 音楽会
- 21日(水) 歯科検診
- 22日(木) 教務委員会
- 23日(金)～24日(土) 森のおとまり(小1～小3)
- 28日(水)～30日(金)期末試験(中)
- 29日(木) 教職員協議会
- ◎7月の予定
- 1日(土) 学校説明会



春の遠足 5月12日(金)

小学校1・2年 (平塚市総合公園)
小学校3～6年 (箱根 大涌谷・湖尻)



中学校 (神奈川県立恩賜箱根公園)



◎今月の行事から

《中学校》

観劇9日(金)

今年は、劇団四季の「アラジン」を観ます。迫力の演技、舞台装置、とても楽しみです。

《学園共通》

14日(水) 引き渡し訓練

神奈川県東部に震度5弱以上の地震が発生し、津波警報が発令されたことを想定して、海の見えるホールに避難します。小学校教育者は引き渡し訓練、中学校生徒は集団下校訓練を行います。学校からの一斉送信システムとの連絡を受けてから来校してください。

20日(火) 音楽会

今年も、ステパノっ子の歌声が響きます。第一部は、小1から小5の発表で、10時45分開演予定です。第二部は、小6から中3の発表で、11時20分開演予定です。今年「気球に乗ってどこまでも」「アーメンハレルヤ」の二曲を皆様と一緒に歌いたいと思います。子ども達の歌声をお聴きください。

《小学校》

23日(金)～24日(土) 森のおとまり

1年生から3年生は、いつも生活している新校舎に泊まります。今年は自分達でカレー作りにも挑戦します。アオバトについて学び、海の見えるホールで紙飛行機大会もします。思い出に残る、楽しい二日間になります。

運の良い先生に

学園長 小川 正夫

単身赴任をしている私は、時々食料を購入するためにスーパーマーケットに寄ります。

そこには何となく賞味期限を気にして比較的新しいものを選んでいる自分がいますが、こんなことがあったことを思い出します。

まだ子どもたちが小・中学生だった頃、私たちはイギリスの南部サセックス州ラジウィック村にある日本人学校「立教英国学院」で仕事をしていました。学院は創立して間もないころで、私たちも慎ましい生活をしていたので、一階が個人経営のマーケット、その二階のフラットを借りていました。

店に買い物に来られるお客さんを見ていると賞味期限が残り少ない物から手にしていることに気が付きました。そのわけは、他のお客さんや、お店の経営者に対する小さな心遣いで、自分の利益より全体を考えることができる心の広さだったかもしれません。お店も賞味期限切れの無駄な廃棄物が少なくなり、みんなが得になるということでした。

私達は思わぬ得をしたり、予期せぬ喜びがあったりする時、ついでにいるとか、運がよかったといえます。幸いを運んで来ると書いて幸運とも言います。たしかに世の中には運の良い人とそうでない人がいますが、運の良い人達はこんな生き方をしているといえます。

昔から、人の役に立つ善い生き方をしていると、運がよくなるといえます。幸せな生涯を生きるための聖書の言葉にも、「受けるより与える方が幸いである」とあります。

私たちの誰にでも、困っている人、悩んでいる人、悲しんでいる人たちに出会ったとき何とかしてあげたいという、優しい心を神様は与えてくださっています。大切なことは実行する勇気を生み出せるかどうかです、助けを求めている人には、手を差し伸べてあげることが出来る人には、運が引き寄せられるといえます。

運をよくする方法がよく言われるのは、他人と争わないことが大切だといえます。勿論、スポーツや様々な競技で競い合うのは尊いことですが、感情を伴った争い事は、勝っても負けても不愉快な思いが残ります。

また、物事がうまくいかないとき、自分では正しいと信じていても、自分の間違った思い込みで過ぎず、他人から見れば正しいとは思えないこともあります。自分のことは自分が一番よく知っているという思いもあります。他人から見ると、気が付いていない自分にも責任があります。それに気づかないでいると、運がますます遠ざかります。

遠くの景色は良く見えています。最も近くにある自分の睫毛は見えないのです。

私たちは様々な人達と出会い、それぞれ役割を担っていますが、それぞれの生活歴や生

活環境、それぞれに培われた価値観があり、みんなが同じ色に染まり、同じ考えで生活しているわけではありませんので、「和して、同ぜず」ですが、どことなく人柄とか、品性というものが身についているような気がします。貪ったり、他人を軽蔑したり、他人を貶めたり、傷つくような陰口を広めたり、絶えず欲求不満を感じていたりしていると、人柄や品性に表れてしまうようです。

私学で初等中等教育に携わる教師は、品格のある教育者として、凡そ四〇年の間、優しく柔らかな心を持った子どもたちに人格的な影響を与え続けていくことを思えば、教育者は品性豊かな人柄で、素直な子ども達が、将来こんな先生になりたいと憧れるような、運のよい教育者になれると思います。

富や地位、知力、権力というより、一見、損な生き方をしているような人でも、人間性豊かな品格のある人には、運がついてくるともいえます。

不運で、希望を失っている様な雰囲気を感じさせている暗い感じの教師から影響を受けるようでは、子どもたちからも、運が遠ざかっていくかもしれません。

やはり、目的意識や希望をもって、確り子どもたちに向かい合い、子どもたちに幸せな運を運んできてくれるような、品性豊かな先生をステパノ学園は目指していきたいと思っています。

中学校教頭 飯田 幸子

四月、今年度が始まりしばらくたった頃です。自宅に帰り一休みして、起き上がるとうすと身体が動きません。何とか身体の向きを変えてと試みるのですが、どうにもなりません。娘に手伝ってもらい身体を少しでも起こそうとすると「ギヤー」という恐ろしい（自分の声ですが）悲鳴まで上げてしまう始末。激痛が腰を始点に体中を走ります。腰は「体の要」とは本当によくいったものなどと頭の片隅では考えられるのですが、その痛みには耐えられず、救急車を要請し、その結果緊急入院と相成りました。お陰様で今まで特に病気や怪我もなく過ごしてきましたので、初めて経験することばかりでした。

さて、私は中学校では社会科を担当していますが、生徒の中には「社会科は覚えることばかりの教科」だと思っている人がいます。（これは、生徒ばかりではないのかもしれませんが。）そこで、私は、いつも「社会科は考える教科であって、決して覚えるばかりの教科ではありませんよ。」と伝えます。そして、物事を一方的に見るのではなく、あちらからもこちらからも様々な方向から見ることが大事であることも付け加えます。社会科を勉強することで養いたい力の一つに「ものの見方の多様化」があります。まずは、ものごとを

あるがままに認め、その上で「どうあるべきか」ということを考えることが大切であると思っと思っています。しかしながら、実際にはなかなかそれは難しいことです。好きや嫌いという感情や自分の利害にとらわれてしまい、ものごとを自分の都合のよいように見てしまうといったようなことがあるからです。でも、それでは真実とはかけ離れた偽りの姿しか見ることができません。一方的なもの見方、公平性を欠いた考え方になってしまい、正しい判断ができずに事をあやまる結果になってしまいうでしょう。先入観などにとらわれずに、あるがままの姿をしつかりととらえ、正しい判断をするためには、先ほどの「もの見方の多様化」があげられると考えるのです。また、百聞は一見にしかずという諺のように、それらが自分自身の体験に裏打ちされたものだとさらによいのではないかと思います。

様々な出来事をすべて自分でやってみることはできませんが、「今まで自分の知らなかった世界」を体験すること（異文化体験）は、それぞれの立場からの見方について理解することにもなり、考えが深まるからです。

手元に清水義範著『どうころんでも社会科』という今から二十年近く前に出された文庫本があります。そのあとがきに「あなたもきつと社会科が好きなのである。いや今は自分でもそのことに気がついていないかもしれないが。私自身、自分が社会科も好きなんだ、ということに気づいたのは比

較的最近のことなのである。社会科なんてわずらわしいことを暗記するばかりの教科だと思っっていて、あまり関心がなかった。理科は現象の原因を考えていく教科だが、社会科は原因は考えないで結果だけを頭につめこんでいくもののように思えた。しかし、年をとるごとにそうでないことがわかってきた。見る目をもって臨めば、どこを見たって、社会科が見えるのだ。なぜなら社会科とは、人間が社会を形成していく上での、科学なのだから。生活の科学なのだから。」

そうですね、生活すべてが社会科なのです。そう考えてみますと、今回の人生初の救急車要請も、ほんの数日の入院生活ではありましたが、その際の様々な体験（それほどではありませんかね）や思いは、多くの事を謙虚に考える契機となる出来事でした。身体が動いて自分のことが自分でできるという当たり前のことが、実はどんなに素晴らしいことであるのか。大切なものが自分の前からなくなつて初めてわかることや、その身になって初めてわかることがある——ということはよく分かってはいるつもりでしたが、それは「つもり」でしかなかったということにも思い至りました。そして、このような思いの中で生活をしている人が今も自分のまわりにもいるということを改めて考えました。

社会科とは「人間の尊厳を守る」ことを考え、どう「善く生きるか」ということを常に科学していく学びなのです。

小さいことをこつこつと積み上げることで、大きな成果を得ることが出来る。そんなことを子ども達から毎日たくさん気づかされます。

現在担任している子ども達は小学校一年生からの担任で、三年目のお付き合いです。毎日元気に「おはようございます」と教室に入ってきてます。ランドセルから勉強道具を取り出し、机にしまい、ランドセルはロッカーへ。連絡帳は私の机の上に。一通りの準備をしてから礼拝まで少しの時間を楽しんでいきます。

授業でプリントが配られたとき、何も言わずに配られたプリントに名前を書きます。両面刷りのものなので、もちろん両面に名前を書きます。名前が書き終わると「さあこい！」という眼差しで顔をあげます。

給食の時、給食当番が配膳の準備をしたり、配膳を始めると、周りの子ども達が自然と手伝いを始めます。「おぼんがないよ」「これくぼってもいい?」「○○くんのおかずがないよ」などなど、自分達で声をかけあって進めています。しばらくすると、配膳が自然と終わり、食事のお祈りが始まります。

四月から毎日欠かさず行っている計算問題。決められた時間内に全問終わらなかった女の子が、五月中ごろに初めて全問クリアできました。その時の笑顔は今までに見たこともな

い素敵なものでした。

鉛筆や消しゴムが落ちていた時、「これだれのかな」「これだれのものか知っている人いる?」と積極的に声をかけてくれます。そうすると周りの人が、「○○くんのじゃないかな」「あ、たぶん○○さんのだよ」と教えてくれます。

これらは、当たり前前のことで、学年が上がれば自然とできるようになると思われがちですが、決してそうではないと思います。

ちよつとした声掛けを、日々の生活の中で何度も何度もすることで、子ども達の体自然と染みついてくる。そしてそれが自然と自分からできるようになってくるのだと思います。

先日、春の遠足に行きました。朝、電車に乗る時間はちよつと通勤ラッシュの時間でした。子ども達は混んでいる電車の中に乗り込むと、目的の駅までそれぞれに場所を見つけて立っていました。そんな時、近くに子どもにも声をかけて、ナツプザックを指さしました。するとその子は「あ！」と小さく言うので、自分のナツプザックを背中に背負った状態から、自分の前で担ぐようにしました。

今回の遠足は、電車の乗り換えが非常に多く、改札口も駅員の目の前を何度も通ることになりました。残念なことですが、教員だけが挨拶をして、子ども達が無言で通り過ぎる場面もありました。促されてようやく言える子ども達もいました。そんな時、ある先頭を

歩く子が、自分から「ありがとうございました」と駅員に挨拶をしました。すると、後に続く子ども達も口々に「ありがとうございました」と挨拶をしました。ちよつとした声掛けは、何度も何度もすることで染みつく、そしてちよつとしたきっかけで、身に付いたことが思い出され、自分からできるようになる。そんなことを強く実感しました。

「ちよつとした声かけ」は時として日々の学校生活の中で意識をしないと忘れがちなものとなります。できるようになる。そんな思いがいつの間にか当たり前になっていきます。でも、小さいことをこつこつと積み上げていくようにしっかりと子ども達に伝えていくことが大切だと思います。それは、一見「口うるさい」ということと表裏一体の様な気がします。しかしながら、学校を卒業し、やがて社会に歩みだす子ども達には少しぐらい「口うるさい」方が良いのではないのでしょうか。

今日も元気に子ども達が登校してきます。この一日でどんな勉強をするのか、どんな経験をするのか、きつと様々な気持ちで教室に足を踏み入れていることでしょう。そんな子ども達の歩みは小さなものかもしれませんが、しかし、その積み重ねが、必ず大きな成長につながっていくことが楽しみでなりません。



演劇と私

教諭 宮崎 幹子

今年度、小学校の演劇クラブと中学校の演劇部をもたせていただくことができることとなりました。学校の先生になって子どもたちと一緒に演劇をやることは長年の夢でしたので、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。今回は少し演劇との関わりから自分史のようなものを書いてみたいと思います。

小学生の頃、私は得意なことがなく、自分に自信をもつことのできない子どもでした。勉強をやっても運動をやっても音楽をやっても他の友達のようにうまくできず、学校の先生にもほめてもらえないことはありませんでした。そんな自分をはじめて先生や友達に認めてもらえたのが演劇でした。

中学二年の時、私は演劇クラブに入りました。クラブの顧問の先生は国語の先生で、授業を直接教えていただいたことはありませんでしたが、どんなことにも全力投球なさる優しい先生でした。その先生の生き方に惹かれ、私も先生が教えてくださることを一生懸命やり、少しずついろいろなことに自信を持つことができようになり、学校生活もだんだんと楽しくなっていきました。そんななか、文化祭では、斎藤隆介さんの『花さき山』をもとにした劇、『あやの花』の主役をやらせていただきました。それまでの自分はほとんど目

立つことをさせていただいたこともなく、その経験は自分自身への自信になりました。その自信から私は将来への希望をもつことができるようになりました。

高校時代は、将来は新派の役者になりたいという夢を抱くようになり、演劇部に所属しながら、清元と日本舞踊の稽古に夢中になりました。高校のあつた茨城・土浦市から東京・銀座の稽古場へ通い、清元を高輪派宗家・家元清元延寿太夫師から、日本舞踊を尾上流家元尾上菊之丞師(先代・現尾上墨雪師)から学びました。一流の芸術に触れる機会が増え、なかなか見ることでできない、日本の古典芸能の世界で貴重な経験をさせていただきました。清元では語りをメインに習っていましたが、認めていただけのことも多くなり、他は苦手なことも多いけれど、得意なこと、できることも自分にはあるという自信をもつことができるようになりました。

何年か学業を続けながら、お稽古事を続けていきましたが、役者の道に進むことがなかなか難しかったことと、当時、大学で研究をはじめていた澤田美喜先生の論文を書くことがとても興味深かったという理由で、大学院に進学することを決め、大学院進学を機にこれらのお稽古事をやめ、学業に専念するという結論を出しましたが、若い時期に自分の好きなことをおもいきりやることで、年を経てからも他者との比較ではなく、自分の好きなことを追いかけ、苦手なことはあっても、でき

ることを最大限がんばっていかうという思いをもつことができるようになった気がします。

このところ教育の世界では子どももの自己肯定感を高めるということが課題になっているようです。自分のことをふりかえっても自己肯定感を高めることはそれほど簡単なこととは言えないのかもしれませんが、しかし、おそらく人には他人には理解されなくても、「これが好き！」と言える何かがある、または、特に子どもの場合、今はなくてもこれから見つかっていくのではないのでしょうか。私の場合、演劇にはじまり、澤田美喜先生の論文を書くということが、「これが好き！」と言えるものであったような気がします。そのような好きなことに関わりながら日々を過ごしていくことができることはとても幸せなことだと思います。

聖ステパノ学園の子どもたちとの関わりのなかからも、それぞれの子どもの好きなものがたくさん見えてきました。子どもたちが好きなものの話をしてくれる時、子どもたちはキラキラ輝いています。これからも、子どもたちの大好きなものの話をたくさんかかせていただきながら、そこから子どもたちが成長する土台を探し、子どもたちが自分に自信をもつことができるようになるよう、認め、励ましていきたいと思えます。

【小学校】五月十二日は、春の遠足でした。
一・二年生は平塚市総合公園へ、三・六年生は、
箱根に行つてきました。

二年 H・U

今日、そう合公園でモルモットをだっこし
ました。モルちゃんをつめがあたりといた
いですが、いたみはそのかわいさと共にき
えます。ぼくたちはモルちゃんとよびま
した。おなかの下はあつたかく、やわらか
くていやされました。だんだん家でもか
いたくなりました。ニワトリを友だちがだ
っこしていましたが、地面におろすしゆん
かん、フンがおちました。そう合公園でた
のしいふれあいできてよかったです。

四年 S・K

きょうは、はこねにいきました。
ケーブルカーとロープウェイにのりました。
たのしかったです。あとくろたまごもおい
しかったです。

五年 K・S

今日は、遠足で箱根に行きました。箱根湯
本で旧がたのときんせんにのりました。な
がめがとてもよかったです。そして、ケー
ブルカーにのつて、楽しみにしていたロー
プウェイに乗りました。まずは、大涌谷に
行きました。おんせんのおいが少しくさか
ったです。そして大涌谷から桃源台まで
ロープウェイで

行きました。こんどは、ふじさんの影が
見えました。うれしかったです。桃源台の
ビクターセンターで、3Dの箱根のちけい
が見られました。また箱根へ行きたいです。

六年 G・S

ぼくは、金曜日に箱根に遠足で行きました。
ケーブルカーまでは、電車で走りました。そ
してケーブルカーに乗って、その後ロープ
ウェイに乗りました。ロープウェイから大
涌谷の底が見えました。すごかったです。地
面の下からけむりがでていてまわりは、岩
や石がごろごろして、黄色い物（イオウ）
がありました。大涌谷につくと、すごいイ
オウのおいが風につれておとりました。お
いは、ゆで卵にたにおいでした。それから
また、ロープウェイに乗って芦ノ湖に行
きました。芦ノ湖は、とてもきれいでした。
芦ノ湖の近くのビクターセンターの近く
でおべんとうを食べました。おべんとうも
おいしかったです。そして学校に帰りました。
とてもいい遠足でした。楽しかったです。



三年生は、遠足の思い出を俳句にしてみました

ロープウェイみんなうれしはこね山

おべんとうくろたまごたべとしふえる

たのしいなロープウェイでやまのぼり

ロープウェイぐんぐんのぼってすぐさがる

ケーブルカー山をのぼってへびみたい

ロープウェイわたしにっこりたのしいな

ケーブルカーひもでひかれてさかのぼる

くろたまご中みはあついてもおいし

アリティスイッチバック前しんだ

大わく谷かざんばくはつ黒たまご

ロープウェイバイバイしたらわらったよ

はこねでねロープウェイでそらをとぶ

おおくだにさばくににててらくだで

しわしわでおおわくだにはおとしより

白たまごながぶろをしてまっくろけ

くろたまご外はくろ色なかたまご

黒たまご大きいおふろでカチカチだ

ゆれているとてもたかいなロープウェイ

I・M I・M I・M O・T K・K K・R K・R G・M K・S S・S S・H S・K S・S T・M H・M H・R M・A Y・D

「中学校」箱根の旧街道石畳を歩く。例年より、距離は短いとはいふものの：六キロの道のりを歩き、充実した遠足となりました。

行ってよかった

中一 I・Y

朝起きると、まぶしい太陽に照らされて、用意しておいたカバンを持ってリビングへ向かいます。いつもならダルい朝もなぜかダルくなくて、身体が軽かったのを覚えています。

やはりお風呂は不安でした。でも、山を目の前にするとそんなことを忘れてしまうくらいワクワクしました。登って行くとやはり疲れてしまいます。いつもなら、そこで「もういいや」「登ればいいや」「そんな言葉が頭をよぎって、逃げてしまっています。なぜだか今回はそんな自分に勝ちたい、そう思いました。

階段はつらかったけど、なんとか自分に勝ち、登りきれた気がします。そんな気持ち忘れず、これから、がんばりたいです。

協力して登った

中一 S・A

私は初めて春の遠足に行きました。班のみんなと協力して箱根の山を最後まで登れて、先ばいのいい所とか名前がわかって良かったと思います。山を登っているとき、つかれたと思ったけど、班のみんなも一生けん命登っていたので最後まで登りきれました。

挑戦!! 箱根登山

中一 K・J

僕は初めて、箱根の山で登山をしました。登ってみると石畳の所がたくさんありました。登る時はとても楽々でした。そして、どんどん登ってゆくと、看板に、「どんぐりの涙」と書いてありました。そこから少し急になりました。しかし、僕は友だちとしゃべっていたので、そんなに辛くなかったです。そして、さらに登ると、箱根旧街道に入り、そこから一気に楽になりました。どんどん行きながら、ほんの少しだけ、先輩としゃべっていました。そして、いよいよ頂上という時に、足が痛くなりしましたが、何とか着きました。その後の温泉はとても気持ち良かったです。今回は、そんなには疲れませんでした。また、この山をもう一度、登ってみたいです。来年どんな山を登るのか楽しみです。

遠足で歩いた道

中二 O・K

今回の遠足では、とてもたくさん歩きました。どんなところを歩いたかというところ、石だたみのような歩きにくい道があったり、階段をたくさん歩きました。わたしのグループの根田先生にささえてもらいながら歩き続けて、やっと「恩賜公園」について、このとき私は、とてもほっとしました。

お昼は、食べる時間が短くて、あわててしまいました。本当はおやつを食べたかったの

に、食べられませんでした。

バスに乗って、箱根湯本にもどりました。箱根湯本の「弥次喜多の湯」は、今回で二回目です。温泉に入ったときに、一回目に見たのと同じ景色で、また温泉に入れるなあ、と思いました。

とても楽しい一日でした。

今までで一番いい歩き

中三 I・R

朝七時十五分頃、ちよつと眠気がありながらレリーフ前に集まった。僕は班長として臨んだ。行く準備ができ、朝のラッシュがちょっときている電車で箱根湯本まで乗りついで行った。バスも使い畑宿という所までついた。けつこう緑が深かった。そこには箱根旧街道へと続く石畳があり、二時間弱みんなではげまし合いながら歩いた。

箱根旧街道につくと道が広い石畳になっていった。しかし、四十分程で終わってしまった。

恩賜箱根公園という芦ノ湖を見渡せる公園でお昼を食べ、弥次喜多の湯へ向かった。

箱根湯本から少し歩き、温泉に入った。温泉は汗を流してくれた。

班長での遠足は無事に終わり、班のメンバーをよく知ることが出来ていい遠足になった。



「春の話そう会」 ミートローフ委員会

4月28日に、小川学園長先生・中一担任西海先生・小一担任高桑先生をお招きし「春の話そう会」を開催しました。心地よい風が会議室にそよぐ中、小川先生とご一緒に今回は洋食のお弁当をいただきながらお話が弾みました。

最初に「これを見てください」と小川先生が見せてくださったのは、卒業生の陶芸作品の写真。その素晴らしさに一同から驚きの声。さらに在校当時、父親の死という悲しみに遭いながらも笑顔で家族を励まし続けた卒業生の事を話され、子どもの力を信じることの大切さを深く考えさせられました。

一方SAからは「先生のご健康の秘訣は何ですか」「お住いはどちらですか」というざつくばらんな質問が出るなど、会が進むにつれて和やかに。ちなみにご健康の秘訣は「ここに来ることかな」だそうです。

昼食後は西海先生と高桑先生も参加して下さり、小さなグループに別れました。あまりに盛り上がり過ぎて互いの声が聞こえないほどに。

特に今の小一や中一の様子が直に伺えた事、またSAからの質問に一つ一つ丁寧にお答えいただけただ事は本当にありがたいことでした。西海先生より「思春期は、あの人みたいになりたいな、と思えるような良い大人に出会うことがとても大事です」というお言葉を頂き、皆さん大きく領いておられました。また、高桑先生は新一年生の様子を詳しく話され、お母様方はホッと笑顔に。

「学年の違うお母さんたちと話せるよい機会でした」「先生方が子ども達のことを思っ下さっているのが分かりとても安心しました」という感想を頂きました。

先生方並びにSAの皆様、有難うございました。

「会に参加してみても」 SAの部屋

ミートローフというのは、皆さんご存知のとおり、ハンバーグと同じような材料を、円筒状にまとめ、オーブンで焼いた料理で、「切り分けて」食べます。ゲストが何人でも大丈夫ですよ、お気軽にいらして下さいというメッセージと共に「分ける」というのは情報や考えのシェアだけでなく、心のシェア、励ましあいもできたらという主旨のもと活動をしてくださっています。

皆で食事をしながら楽しく交わるというのは、「神様の前で家族になれる」時間でもあるようです。貴重なお話を聞けて、元気もいただきました。次回も楽しみです。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

サンニチホールディングス杯

第2回彩の国 Spring フィギュア

スケート競技会 ノービスA男子

第2位 中3 F・H

【お祝い】

5月27日、佐藤優先生がご結婚され、黒澤優先生となりました。

末永くお幸せに！



編集後記

非常に暑かった臍月から、紫陽花が美しく咲く季節となりました。夏服へ衣替えです。衣服の着方の工夫で体調を整え、清潔な生活に留意したいですね。十分な睡眠とバランスの良い食事、毎日の生活を整えて、本格的な夏に備えたいものです。(わ)

代表者 学園長 小川 正夫
発行者 ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒二五五〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463・61・1298

FAX 0463・61・9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一七年六月八日(木) 発行 第211号